

海ごみから考える「自然と人間の共生」



講師：誇れるふるさとネットワーク

池田 龍介さん

令和2年度与論町海洋教育

15号

昨年度から与論町教育委員会では日本財団・東京大学海洋教育センター・笹川平和財団海洋政策研究所からの支援を受け海洋教育パイオニアスクールを導入しました。町内の小・中・高等学校が連携して行う「地域連携型」というスタイルで海を通じた学びの活動を行っています。与論町教育委員会を含め全国10の地域が「地域連携型」で海洋教育パイオニアスクールプログラムに参加しています。

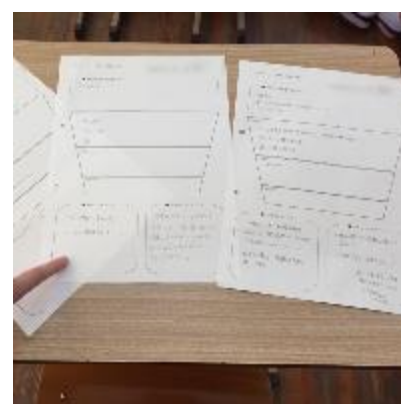
3月1日、与論中学校3年生の海洋教育の授業を見学させていただきました。講師は誇れるふるさとネットワーク 池田龍介さん、授業テーマは「海ごみから考える『自然と人間の共生』」です。

授業の始めに池田さんから「海ごみ」「SDGs」「プラスチックフリー」、それぞれ聞いたことがあるか問いかけがありました。「海ごみ」「SDGs」は、クラスのほとんどが聞いたことがあり、またほぼ全ての生徒さんが海ごみ拾いをやったことがあるそうです。

その後、日本へ漂着するゴミ、日本から出るゴミそれぞれが、どこから来てどこに行くのかも復習しました。魚、動物の体内からプラスチックが発見されていることは知られていますが、最近では塩、岩塩からもプラスチックが発見されているという池田さんの話に、生徒さんも驚いていました。



また、1950年代の広告写真（プラスチック製品が映るもの）を含む3枚の写真を見てそれぞれ何を感じるか書きとめたり、「Reduce, Reuse, Recycle」の3Rについて自分にできることを考えたりしました。池田さんから「Reduce > Reuse > Recycle」で取り組むことが大切だという考えを聞き、プラスチック製品そのものが悪いわけではなく、本当に必要な時に必要な分だけ使うという最初のステップがとても大切だということを学びました。



授業の最後には、「自分にできること」「チャレンジしたいこと」を考えました。「ゴミ拾いしても、結局自分からごみを出して環境を悪くしているのはどうすればいいんだろう。」「他の国での事情（良い・悪い含む）を知りたい。」など、実際に海ごみ拾いなどを経験している生徒さんだからこそ感じることでできる内容も聞くことができました。

日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

海洋教育センター
CENTER FOR OCEAN LITERACY AND EDUCATION

笹川平和財団
海洋政策研究所

<https://www.spf.org/pioneer/school/>

取材：

与論町海洋教育推進協議会事務局

取材日：2021.03.01